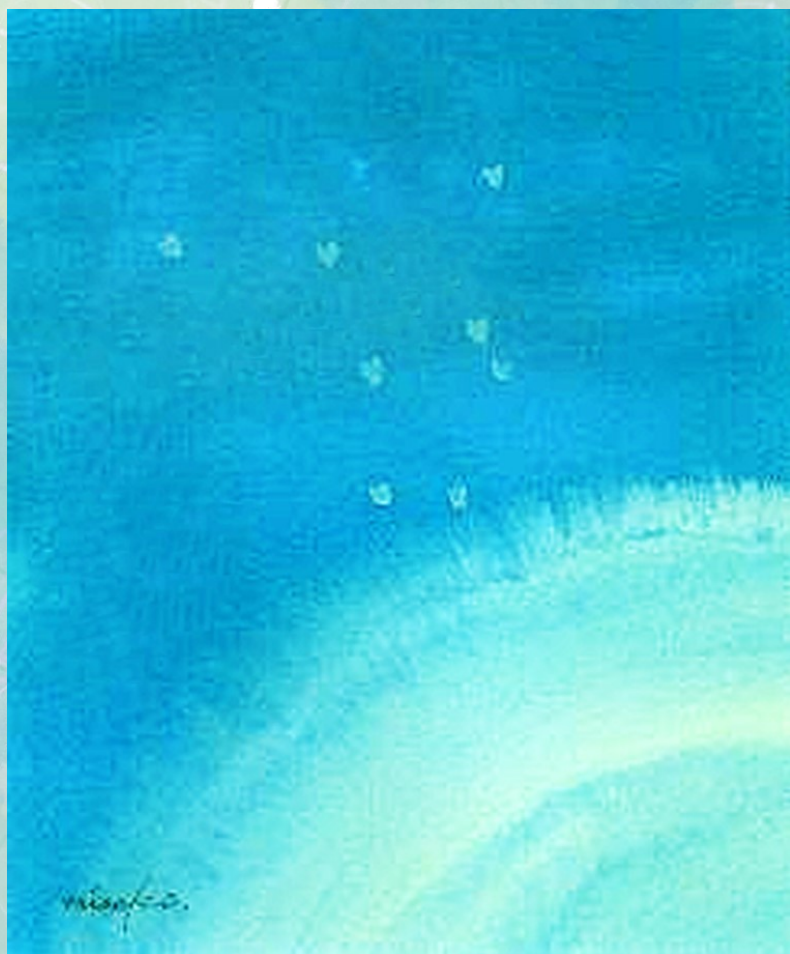


生きたいと思う命

詩集 上巻

越川美佐子



生きたいと思う命

詩集 上巻

越川美佐子

表紙 誕生

「私との関わり」

- 1 立ち上がれ
- 2 私はめまいがした
- 3 歩く
- 4 水玉は、
- 5 月を見つめて
- 6 一個の私
- 7 高校生だったころ
- 8 変わりたいんだ
- 9 出会いとは
- 10 いまや
- 11 ここで暮らして
- 12 ハングリー
- 13 自由って
- 14 平等制
- 15 丁寧に
- 16 否定しない
- 17 いい仕事してますね～

「もう一つの病」

- 18 生きたいと思う命
- 19 死とは何ものなのか
- 20 いつも
- 21 母の字を
- 22 母の面影
- 23 鷹の台駅

- 24 作品
- 25 仕立て直し
- 26 レクリエ
- 27 荷物
- 28 今の私が私らしく,,,
- 29 初めて書いた言葉
- 30 無題 (1)
- 31 無題 (2)
- 32 無題 (3)
- 33 無題 (A)
- 34 無題 (B)
- 35 無題 (C)
- 36 無題 (D)
- 37 無題 (あ)
- 38 無題 (い)
- 39 無題 (う)
- 40 無題 (え)
- 41 金のひよ子
- 42 離れますね
- 43 ひよ子の目
- 44 生きようとする力
- 45 痛みには
- 46 頑固さは

「ここでの暮らし」

- 47 1 か 100 ではなく
- 48 さりげなく
- 49 らしさを
- 50 気にかけてくれる人が
- 51 決断
- 52 残りの時間
- 53 生きている
- 54 小さな巨人
- 55 わからないもどかしさ
- 56 あなたがいて私がいる
- 57 カンフーおじさん
- 58 朗読の時間
- 59 呼吸器がすべて
- 60 一日の命
- 61 残してきた物
- 62 無題
- 63 救われる
- 64 一枚の絵から
- 65 あの頃は
- 66 こんなにも

「様々な出来事」

- 67 あなたに
- 68 風に吹かれて
- 69 この世の

- 70 次から次へと
- 71 求められるのは
- 72 最後の一葉
- 73 やりたい想いではなく
- 74 自分の中の
- 75 同じものを
- 76 我慢
- 77 終わりなき戦い
- 78 ガチャガチャ
- 79 わかっているのに
- 80 難こそ
- 81 生まれた時から

「白い箱の中で」

- 82 さらけ出す
- 83 伝えたかった言葉
- 84 文字うち
- 85 言葉を教えてくれた人
- 86 過去に
- 87 道は
- 88 足が
- 89 言葉は
- 90 見向きもされず
- 91 心よ鎮まれ
- 92 どんなに
- 93 何もしない自分に

- | | | | |
|-----|-------------|-----|------------|
| 94 | 見えない力に | | 「子供たち」 |
| 95 | 物になるか | 114 | あなたの手に |
| 96 | 弱気の克服 | 115 | 子供の歌声に |
| 97 | どうしても | 116 | 築けないもの |
| 98 | エール | 117 | 人の道 |
| 99 | 太陽になれ | 118 | 身に染みた |
| | | 119 | みんな平等？ |
| | 「世の中では」 | 120 | 足が教えてくれた |
| 100 | 一番に | 121 | 祈りは |
| 101 | 今を大切に | 122 | 受け入れて |
| 102 | 想いひとつ | 123 | 桜梅桃李 |
| 103 | 言葉には | 124 | 奇跡の誕生 |
| 104 | 子供だって | 125 | 君のことが大事なんや |
| 105 | この地球上で | 126 | 原点に |
| 106 | 支えてくれた人が | | |
| 107 | 世界に繋がる心 | | 「黙考」 |
| 108 | 誰にとっても | 127 | 想像力 |
| 109 | 誰の命にも | 128 | 人間になるって |
| 110 | 誰もが | 129 | 人間の心を |
| 111 | 違う日常 | 130 | 孤独に |
| 112 | 挑戦より | 131 | 言葉は |
| 113 | 手に触れることが出来な | 132 | 眠れない |
| | い | 133 | 衆生所遊楽 |
| | | 134 | ひきこもり |
| | | 135 | 反対側 |
| | | 136 | 人は人なり |

137 人に尽くす
138 学ぶ日々
139 お母さんになるって
140 ボタンのかけ違い

「看護って」

141 本当は
142 一番の願いは
143 自分の力
144 目の前の人を
145 命を
146 ゴッドハンド
147 きっとうまくいく
148 心だけは
149 看護の理念
150 言ったところで
151 頑固さは
152 あなたが来てくれると
153 一度吐いた言葉は
154 話すだけで
155 馴れ合いなのか
156 ナースの眼
157 担当になるって
158 3つの心得
159 そばにいてくれると
160 それでも

161 母のように
162 私は貝に

「繋ぐ思い」

163 その一言
164 震動が
164 心で見て
166 くやし涙
167 記録
168 守ってあげて
169 毎日の積み重ね
170 楽観人生
171 信じること
172 難しいこと
173 繋いでくれた

私との関わり

『立ち上がれ』

つま先立ちの病は私に立ち上がる事を教えてくれた

石につまづき
草につまづき
人につまづき

擦りむいた膝の擦り傷は幾度と,,,

つまづいても立ち上がる

お尻を持ち上げ
膝に手をおき
右に左に
上へ上へと自分の体をよじ登っていくように

足に力がなくても
手に力がなくても
バランスをとり 勢いをつけながら,,,

揺さぶりながら
天を仰ぐように

歯を食い縛り私は立ち上がる

ランドセルの重みに揺さぶられながら

つまづいても
何度でも何度でも

私は立ち上がる,,,

『私はめまいがした』

自分と教室

自分と廊下

自分と桜の木

自分と家々

自分と停留所

自分と電柱

転んだら 何かに掴まり立ちをする

それが机だったり廊下の柱だったり

何かがそばにあれば
誰かがそばにいれば
それだけで安心だった,,,

ある時 グランドの石につまづき私は転がった

いつも 下ばかり見ている私が寝そべり
天上に仰向けになりながら空を見上げた

ふわふわと掴み所のない雲

高い,,,

どこまでも高い空に 私はめまいがした,,,

『歩く』

一歩一歩「歩く」

ランドセルの重みに 揺さぶられながら,,,

一歩一歩「歩く」

歩き方は普通じゃあないが,,,

思えば 私にとってその「一歩」こそが

自分の人生と同じくらい

大切な「一歩」だった,,,

『水玉は,,,』

気づかない内に
雨雲が迫り
逃げ場を失った虫たちのように
雨宿りを探す

かけ足の出来ない私はこんな時
頭から足の先までずぶ濡れになった,,,

蛙や小さな動物たちを見習って
通りすがりの畑にあった里芋の大きな葉を頭に乘せて,,,

雨のはじく水滴が面白く

葉を揺らす度に
「水玉」は大きく重なり
葉っぱの中で揺れていた,,,

「水玉」は雨が上がった陽の光を集めて
私の顔を写し反射していたかと思うと

いつの間にか
私も「水玉」の世界へと誘い込まれていた,,,

『月を見つめて』

夕涼み縁側に座り 静かに月を見つめていた
私の隣では猫も真似をして佇んでいた

暗がりの中
月の一筋の光にお願いをするように「月を見つめて」いた

「私がこの先どう生きていったらいいのか」

「私がちゃんと生きられるように」
「どうか見守っていてください」とお願いをしていた

それは
家に帰ってからの中学の夏の思い出,,,

『一個の私』

庭先の地べたにしゃがみ 蟻の行列を見ていた

一匹の蟻の行方をずっと眼で追いながら見ていると,,,

一匹の蟻が運んでいた餌に他の蟻たちも群がる

どの蟻が餌を持ってきた蟻なのか
わからなくなりながら,,,

蟻には蟻の世界があるのを感じながら

蟻ではない
私という一個の私を重ねて思っていた

人が群がる
そこに一個の私がちゃんと存在するのか

蟻を見ている私を
傍観している
もう一人の私がそこにいた,,,

『高校生だったころ』

私が高校生だったころ
ひまわりは咲いていただろうか,,,

あれから 40 年
私は今もここで生きている

あの頃の私が
今の自分を想像出来ていたかはわからないが,,,

「白い壁をつたい」
「鉄わくのぶ厚い窓ガラス」が嵌め込まれていて
今もその名残があるが,,,

あの頃を想うと
「白い月」や「ひまわり」を
見る間もなく過ぎて行った青春時代,,,

今も変わらずに
あの時のまま残っているのは
「病棟」と学校を結ぶ一本の「長い廊下」

私はこの廊下を
車イスをこぎながら幾度も通いながら
心で想っていた,,,

『変わりたいんだ』

弱い心を覗かせたあの頃

いつも自信がなかった
みんなから間違い探しをされ
レッテルを貼られ 心が卑屈になり
何もかもに自信がなかった

人を信じられず
視線が怖くて私の居場所がない,,,

でも
ある時から変わった
自信があるからじゃあない,,,

今だってどうしようかと思うさ,,,

でも何かが変わり始めた,,,

自信のない自分じゃあなく

「こんな私でもいいんだ」と思わせてくれた,,,

顔を表に出さないように
目スレスレの髪も切り落とし顔を持ち上げた

暗い色の洋服もさっぱり捨てた

思いきって
やってみると案外なんてことなかったりして,,,

勇気がいるけど「あなたはあなたらしくていいのよ」
と言ってくれたから,,,

「変わりたいんだ」

そう思える気持ちがあれば人は変われる

そう思わせてくれた人たちに出会えたことが

それだけで私は「生きる」自信を取り戻せた,,,

『出会いとは』

小学校の同級生に誘われ「ボランティアの集い」に参加した

ドキドキしながら
辺りを見渡して
誰かが話しかけてくれるのを待っていた

そこへ当時大学生の青年が私に近寄り

いきなり

「筋ジスって死ぬんですか」と
ぶっきらぼうに聞くもんだから

「じゃあ あなたは死なないんですか」と私は答えた

その返しを青年は
「まったくだ」と頷きながら大笑いしていた

「気に入った」とばかりに
その「出会い」が私たちの腐れ縁となり

人生において
「今も大切なこと」を探し続けている関係になった



